

科目名	薬理学			ナンバリング	BSS221	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	富岡節子	担当教員	○富岡節子				

授業の概要	薬理学とは、生体内外の物質と生体の相互作用を種々の研究方法により個体、臓器、組織、細胞、分子のレベルを貫いて総合的に研究し、薬物の疾病治療への応用を視野に入れ、薬物治療の基盤を確立する科学である。薬理学は、看護学を修得するうえで、欠くことのできない領域であり、ここでは薬物療法の基本となる薬物の作用、作用機序、体内動態についての基本を学ぶ。さらに、末梢神経系、中枢神経系、循環器系、泌尿・生殖器系、消化器系、血液・造血器系、感覚器系、代謝・内分泌系などに区別して、それぞれの主要な作用薬について学修する						
到達目標	臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な薬理作用・副作用・相互作用を取得し、応用し、活用できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	講義前後に予習・復習をし、知識を定着させる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な薬理作用・副作用・相互作用を修得し、応用し、活用できる。	臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な薬理作用・副作用・相互作用を取得し、応用し、活用でき、多職種の関係スタッフと情報共有し、最適な薬物治療を展開できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	医薬品総論	医療において薬物治療は疾患を改善するうえで大きな役割を担っており、その薬物とはなんであるかを知り、薬力学、薬物動態学を学び、薬が私たちの体内でどのような仕事をしているのか説明できる。	
	第2回	生活習慣病に使用する薬 1	高血圧、狭心症、心筋梗塞に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第3回	生活習慣病に使用する薬 2	不整脈、心不全に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第4回	生活習慣病に使用する薬 3	脂質異常症、糖尿病に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第5回	がん・痛みに使用する薬 1	がんに使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第6回	がん・痛みに使用する薬 2	がん性疼痛に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第7回	感染症に使用する薬 1	感染症に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第8回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬 1	抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第9回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬 2	向精神薬、アルツハイマー型認知症治療薬、脳血管障害に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第10回	救命救急時に使用する薬 1	ショック、中毒に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第11回	救命救急時に使用する薬 2	麻酔時に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。輸液の種類と使い方について説明できる。	
	第12回	アレルギー・免疫不全状態で使用する薬	気管支喘息、呼吸器疾患、関節リウマチに使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第13回	消化器系疾患に使用する薬	消化器疾患に使用する薬について、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第14回	その他の症状に使用する薬	外用薬の使い方、薬理作用、作用機序、副作用、相互作用を説明できる。	
	第15回	まとめ	症例に対し適切な指導ができる。	
	試験	期末試験		
授業の進め方		スライドとプリントと教科書を用い、講義と臨床を結びつける。		
授業外学習の指示		予習・復習をする。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	ナーシンググラフィカ
参考書	看護のための臨床病態学 改定3版 南山堂 看護学講座 薬理学 医学書院 図解 薬理学 医学書院
参考URLなど	
その他	